

# かしはら



かしはら

## 第169号

平成28年

紀元2676年

- 宮司あいさつ
- 特別寄稿
- 祭典行事報告
- 行事予定

榊原のとほつみおやの忠柱  
たてとめしより國はうごかず

明治天皇御製

廣かに玉とくしとりてうねびふ  
言きみいつと仰とけふかな

昭憲皇太后御歌

畝傍山

橿原神宮

神武天皇  
畝傍山東北陵

## 神武天皇二千六百年大祭にあたりて

先ず以て本年四月の熊本地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

皆様方には平素より当神宮に対しまして、御懇篤なるお心をお寄せ戴いておりますことに衷心より御礼申し上げます。

さて本年は皆様御承知の通り、御祭神神武天皇が橿原宮で崩御されてより二千六百年の御式年に相当することから、数年前よりこれの記念事業を行って参りました。御本殿の檜皮屋根葺替を始め、御本殿内の御神宝・御内陣調度品の修理新調・勅使館改修・各鳥居修理・境内各社殿工作物洗浄等、数々の事業を実施致しました。

なかでも御本殿は、創建にあたり明治天皇より下賜された元京都御所の内侍所であり、国の重要文化財に指定されております。その様なことからこれの修理事業につきましては、先ず平成二十六年十月二十九日、御神霊に仮の御殿にお遷り戴く仮殿遷座祭を御奉仕申し上げ、その後文化庁・奈良県の御指導のもと昭和五十一年以来約四十年振りとなる檜皮屋根葺替工事と全ての金具の修理や葺戸の漆塗りを終え、本年一月に工事が無事完了し三月八日勅使御参向のもと浄闇の中、仮殿から御本殿へと御神霊にお遷り戴く本殿遷座祭遷座の儀、翌九日は本殿遷座祭奉幣の儀を執り行い、天皇陛下からの御幣帛を御神前に奉りました。

その他予定の各記念事業も無事完遂し、清々しい御本殿のもと例年四月三日の神武天皇祭を本年は「神武天皇二千六百年大祭」として、さらには天皇陛下よりの御幣帛を大前に奠じ、我が国の建国の祖神である神武天皇を偲び奉る全国津々浦々より橿原神宮の崇敬者約三千名の御参列のもと恙無く祭典が斎行出来得ましたこと、洵に有り難きことと存じ上げております。

祭典当日の午後、畏くも天皇・皇后両陛下には思し召しを以て当神宮に御参拝賜り、内拝殿の奥に進まれ皇祖神武天皇の大前に立玉申を奉られ御拝礼あそばされました。両陛下の御姿に、皇祖神武天皇に対します

尊崇のほどを押し奉り只々有り難く、お帰りに際し天皇陛下より「橿原神宮のこと、これからも宜しく頼みます」との優渥なるお言葉を賜りましたことは、洵に畏れ多いこととて小職を始め職員一同感慨一入でございました。私ども神職職員一同は、皇室の弥栄と国家の隆昌、国民の安寧更には世界の平和を願ひ日々奉仕を致しておりますが、此の度の陛下のお言葉を胸に、大御心に副い奉るべく当神宮の奉護に一層邁進する決意を新たにいたしました次第でございます。

神武天皇は御治世七十六年橿原宮で崩御あそばされましたが、この神武天皇の建国の大精神はこの地上に住む全ての人々が一つの家族の様に仲良く暮らせる世の中の実現であり、世界平和と人類の共存共栄を願う八紘掩宇の大理想の顕現であります。

今日我が国の内外は甚だ厳しいものがあり、様々な問題を抱え将来的にも決して安穩としてはいられない社会ではありますが、このような時代にあたり曾て我々の先人達が国難に際し神武天皇の建国の精神を想起し、共に力を合わせ困難に立ち向かったのと同じ様に、今の時代を生きる我々も神武建国を偲び、一致協力して平和社会の実現を目指して参らねばと思う次第であります。そしてその神武天皇の建国の大理想をこの橿原の地から大いに発信して行くのが橿原神宮の使命であると存じております。

皆様方には今後とも橿原神宮に篤いお心をお寄せ頂きますとともに御祭神神武天皇皇后の御加護のもと、日々の御安泰をお祈り申し上げ挨拶旁神武天皇二千六百年にあたりましての報告と致します。

#### 追補

六月十日午後、安倍総理には橿原神宮森林遊苑での遊説後、急遽神武天皇二千六百年にあたり橿原神宮に参拝。足取りも軽く内拝殿に進み建国の祖神神武天皇の大前に拝礼されました。

橿原神宮 宮司 久保田 昌孝



菟田茂丸うたいかしまる宮司の余光

宮崎神宮 権宮司 黒岩 昭彦

本年三月八日から九日にかけて斎行された、檀原神宮の本殿遷座祭「遷座の儀」と「奉幣の儀」に参列が許された。

初代神武天皇が崩御されて二千六百年の式年にあたることから、御本殿檜皮屋根葺替工事竣工に伴い、勅使参向のもとに斎行されたものだ。それを拝しつつ、今回の神事の原点ともいうべき、昭和十五年の「紀元二千六百年」のことを想起していた。全国から延べ百二十万人といわれる「建国奉仕隊」の勤勞奉仕によって、初代天皇を祀るに相応しい壮大かつ荘嚴なご社殿へと、趣きを一新したのである。

この未だかつてない大事業を取り仕切った人こそ、菟田茂丸宮司であった。

菟田茂丸は、檀原神宮の第七代、第十一代宮司であった。つまり同職を二度奉仕した人で、神社界でも極めて稀な履歴を持っている。また伊勢の神宮（以下「神宮」）の少宮司も務め、同時代を代表する神職の一人であった。

この宮司の出身地が、福岡県遠賀郡であったこ

とは興味深い。近くには、神武天皇社と呼ばれる旧県社が鎮座している。檀原神宮のご祭神神武天皇は、大和檀原の地で初代天皇の御位に就かれたが、その「神武東征」の途上には、五瀬命はじめ三人の皇兄を失う艱難辛苦があった。日向美々津をお船出された天皇は、菟狭の後に「筑紫国の岡水門」に滞在されたが、この遠賀郡の芦屋町こそ、岡水門とされる地なのである。

昭和十五年に文部省は、紀元二千六百年奉祝事業の一環として全国十九箇所「神武天皇聖蹟顕彰碑」を建てて、この神武天皇社の正面鳥居横にその顕彰碑は現存している。

現在の神武天皇社のご社殿は、神宮の式年遷宮撤下古材で再建されたものだ。昭和二十年の空襲によって焼失したのであって、平成十二年に神宮より拝戴したという。

かくして檀原神宮の「中興の祖」ともいえる菟田宮司は、神武天皇所縁の地に生まれ、その敬神の念を以って奉仕したのであろう。「奉幣の儀」の撤下品として、昭和十五年発刊の宮司著『檀原の遠祖』の復刻版を頂戴したので、改めて読んでみた。

「岡ノ水門が、即ち日本書紀に記されてゐる神武天皇御船出の聖地であります」と綴つてある。

三月二十八日に凶らずも菟田茂丸宮司の墓に参ることが出来た。

それは、遠賀郡芦屋町に鎮座する岡湊神社林田守邦宮司との、平成二十七年暮れの電話でのやりとりを、奇しくも檀原神宮参拝によって思い出したからである。

当初は、既述の「神武天皇聖蹟岡水門顕彰碑」の視察と、同地出身の幡掛正浩元神宮少宮司が、昭和二十二年に設立した「兄弟文庫」の話でも聞きたいと考えた。

ところが、幡掛少宮司の話題から、同じ少宮司を務めた経験を持ち、且つ同地出身である菟田宮司へと導かれたのである。聞けばその墓は、遠賀郡岡垣鎮座の高倉神社の近くにあるという。

而して、二十八日の朝に岡湊神社に到着すると、宮司のご子息・林田浩倫権禰宜が対応して下さった。神社で簡単な説明を受けて、「神武天皇聖蹟岡水門顕彰碑」が据えられている神武天皇社に向かった。石碑に関しては、行政が無関心である状況や、維持管理が難しいとも語られた。これも神武天皇を取巻く現実であることを知った。

そして菟田宮司の墓に向かった。岡湊神社から

車で十分程の所で、高倉神社の裏手にある山の入り口に菟田家の墓石群があった。一番手前に位置し、正面には「鎮魂比翼久奥城」と刻字され、右側面には「昭和四十三年二月十九日享年九十七歳」とある。

菟田宮司は、紀元二千六百年奉祝事業の成功と共に、昭和十七年檀原神宮を退職、一線から身を引いた。郷里の福岡に戻って来たが、その地位や実績とは裏腹に、「寂しい晩年」のように見受けられたとは、林田宮司が電話で語った感想であった。

そんな宮司の話を思い出しつつ、ともあれ、紀元二千六百年事業の功労者に祈りを捧げた次第である。

顧みれば、三月八、九日の檀原神宮での「神武天皇二千六百年祭」に係る神事の参列が契機となつて、菟田宮司の墓前に導かれる格好となつた。神武天皇のご偉業を顕彰した菟田宮司の余光が、この地に筆者を誘つたものであろうか。

### 黒岩 昭彦プロフィール

昭和38年宮崎県生まれ。皇學館大学 文学部 神道学科卒。同61年檀原神宮奉職。平成3年神社本庁勤務を経て、同20年宮崎神宮禰宜、同25年より現職。編著に「ねんご時定むる」(神社新報社)、共著に「昭和前期の神道と社会」(弘文堂)がある。

# 祭典行事報告

## ■本殿遷座祭 遷座の儀（三月八日）

御本殿檜皮屋根葺替工事のため、御本殿から幣殿へ御神霊にお遷り戴く仮殿遷座祭が平成二十六年十月二十九日に斎行されました。三十九年ぶりの屋根工事のため、御神霊は一旦、仮殿となる幣殿に御鎮まり戴きました。平成二十八年二月に無事一年間に渡る工事が完了し、祓い清められた御本殿へお遷り戴く重儀「本殿遷座祭 遷座の儀」が執り行われました。奉仕者の手に持つ絹垣（絹のとばり）によって囲まれた「御」を中心に、御勅使 北島清仁様 御参向の下、四十名を超える神職によって渡御列が整えられました。笏拍子の合図で全ての灯りが消され、浄壇の中、御のお進みになる祓い清められた布單の道を「オー」という警蹕を神職が発しながら、肅々と斎行されました。



先導の灯りに導かれ、御勅使が参進



幣殿から御神霊が絹垣に囲まれて渡御される様子

## ■本殿遷座祭 奉幣の儀（三月九日）

前日の本殿遷座祭が無事斎行されたことを祝うと共に、御祭神の常若、御大恵益々にと祈念する祭典です。勅祭社である檀原神宮の重儀ということもあり、天皇陛下より御幣物を賜り、祭典は肅々と斎行されました。新たに葺替えられた檜皮葺屋根、漆黑塗りの建具、光輝く飾り金具に生まれ変わった清々しい御本殿に御遷り戴く重儀「本殿遷座祭」が、この奉幣の儀をもって斎了となりました。

## ■御鎮座記念祭（四月二日）

檀原神宮御鎮座をお祝い申し上げる目的で、創建翌年の明治二十四年より現在まで続く祭典です。神賑行事として、毎年恒例の国栖奏も奉納されました。

## ■横綱鶴亀土俵入（四月二日）

第七十一代横綱・鶴亀関による土俵入り奉納行事が執り行われました。前回は、平成二年に当時の横綱である千代の富士関と北勝海関によって執り行われており、今回の土俵入り奉納行事



横綱・鶴亀関と太刀持の豊ノ島関、露払いの正代関



辛櫃の蓋を開け、御幣物を幣殿へ





御幣帛を奉じて、宮司以下祭員の参進



巫女による神楽扇舞の奉奏



祭典を見守る多くの御参列の方々



大祭斎了にあたり宮司より御挨拶

は実に二十六年ぶりとなりました。午前中に「御鎮座記念祭」が斎行されていたこともあり、土俵入りが行われた外拝殿は、多くの参拝者で賑わいました。横綱が四股を踏むと「よいしょ！」と参拝者から歓声が上がり、終始盛り上がりを見せました。

■ 神武天皇二千六百年大祭（四月三日）

御祭神である神武天皇の御聖業を讃える祭典で、本年は神武天皇が崩御されてから二千六百年の式年の中にあたります。当日は午前十時から祭典が斎行され、橿原神宮責任役員をはじめ、神社関係者、崇敬者を含め約三千名に御参列戴き、滞りなく、百年に一度の式年大祭が斎行されました。

■ 天皇后両陛下御参拝（四月三日）

神武天皇二千六百年大祭斎了後、天皇后両陛下が橿原神宮へ行幸啓あそばされました。今上陛下・皇后陛下の御参拝は実に十四年ぶりという事もあり、参道周辺は両陛下をお迎えしようという人々で大変賑わいを見せました。当日は不安定な天候で、時折小雨も降りましたが天候は回復。御参拝賜った後は宝物館へ移動され、明治天皇御奉納の太刀や昭憲皇太后御奉納の御鏡をはじめ、数々の宝物を御鑑賞されました。両陛下から宮司へ質問が投げかけられる場面もあり、終始和やかに過ごされていました。



両陛下をお出迎えする崇敬者とお言葉を交わす場面も



宝物館にて宮司が両陛下へ「明治天皇御奉納太刀」について御説明

### 平成二十八年祭典行事予定

(八月～十二月)

- 八月一日(月)～五日(金) 林間学園
- 九月九日(金) 献燈祭
- 九月二十二日(祝・木) 秋季皇霊祭遙拝
- 十月三日(月) 秋季大祭
- 十月十七日(月) 神嘗奉祝祭
- 十月中旬 拔穂祭
- 十月一日(土) 七五三特別祈禱
- 十二月第一日曜日
- 十月二十日(木) 菊花展
- 十一月二十三日(祝・水) 明治祭
- 十一月三日(祝・木) 新嘗祭
- 十一月二十三日(祝・水) 橿原市農業祭
- 十二月二十三日(祝・金) 天長祭
- 十二月二十八日(水) 煤払神事
- 十二月三十一日(土) 大晦大祓
- 除夜祭 神符清祓

毎月一日・十一日・二十一日は月次祭を斎行。  
 ※ご参列ご希望の方はお問合せ下さい。

神武天皇二千六百年大祭記念

はたみえこ

## 畑美枝子 ソプラノ奉納コンサート

平成28年10月3日(月)  
 秋季大祭終了後 約30分間

神武天皇が崩御されて二千六百年の式年となる本年、橿原神宮ではソプラノ歌手の畑美枝子氏による奉納コンサートを開催いたします。オペラの本場、イタリアで実績を積み、帰国後は伊勢神宮をはじめ、全国数々の神社で歌曲奉納を積極的に行ってきた畑氏の歌声を皆様にお届けいたします。



【プロフィール】  
 幼少より日舞をはじめ子役として松竹市川猿之助歌舞伎や二期会歌劇・「夕鶴」「カルメン」などに出演しクラシック・オペラに興味を覚える。その後渡伊し、バルマ国立音楽院声楽コースに入学。在籍中数多くのコンクールにて受賞。イタリア古典曲、イタリアオペラの解釈と伝統的歌唱法を学び、オペラデビュー。日本、イタリア、スペイン歌曲等の演奏会をヨーロッパ各地で催し好評を博す。声楽の指導にもあたり、98年帰国。

帰国後は神社での奉納コンサートを精力的に行い、第62回伊勢神宮式年遷宮奉祝奉納コンサート、第34回賀茂御祖神社式年遷宮、第42回賀茂別雷神社式年遷宮奉納コンサートに出演。又イタリア、日本で多くのチャリティーコンサートに参加。現在二期会イタリア歌曲研究会会員、日本演奏家連盟会員、畑チエチリアベルカント研究会創立。

## 橿原神宮 文華殿 秋季特別公開

昭和42年に、織田家旧柳本藩邸の表向御殿を移築、復元したもので、重要文化財に指定されている文華殿。  
 橿原神宮では文華殿とその庭園を春に引き続き、秋にも特別公開いたします。  
 期間：平成28年11月中旬～12月中旬(予定)

